

獨協医科大学埼玉医療センターは、開設後 30 年余、増築を経て現在に至っています。新しい医療ニーズに応えるため新棟を建設し、同時に老朽化の進んだ既存棟は改修工事を行いました。照明は従来の蛍光灯器具から、視環境を向上しつつ、省エネ、省メンテナンスを実現する LED 照明器具を採用しました。

既存棟は8階建て、第一期として地下2、3、4、8階の改修工事が計画されました。工事エリア外は稼働しながら、機能停止しないよう配慮した工事計画のもと順次完工していきました。今回照明器具が設置された3階は産科病棟とMFICU(母体・胎児集中治療室)、NICU(新生児集中治療室)やGCU(新生児治療回復室)など高度医療への対応を整えた、周産期母子医療センターとして機能します。



【物件概要】  
所在地：埼玉県越谷市南越谷 2-1-50  
改修面積：10,729.64㎡  
改修棟構造・規模：SRC 造  
施主：学校法人獨協学園  
設計：(株)大林組  
施工：建築／(株)大林組  
電気／(株)関電工  
完成時期：平成 30 年 3 月末日 (3 階の第一期工事)



NICUの照明 LED2面配光間接光①②と下面アクリルパネル付きのTENQOOシリーズ埋込形③を照明コントロール(全点灯500ルクス、右下は300ルクス点灯)



GCUの照明 LED2面配光間接光①②とTENQOOシリーズ埋込形③を配置



スタッフステーションの照明 TENQOOシリーズ埋込形④



### 新生児部門に2面配光間接光器具を採用し新生児とスタッフ双方にとって快適な空間を実現

照明計画は、エリア目的に応じた明るさの確保と、眩しさの抑制および雰囲気づくりを念頭に実施されました。スタッフステーションはTENQOOシリーズ(埋込形40タイプ)の昼白色(5000K)で快適な明るさを実現。廊下など共用スペースはリラックスしやすい雰囲気を演出するLEDユニット交換形ダウンライト温白色(3500K)を採用しています。NICU、GCUの新生児部門は、新生児が胎内にいる際の環境をイメージし、暖色で低めの照度設定にしています。2面配光間接光器具(電

球色)を採用し、壁面と天井面を適切に照らすことで、新生児には眩しさを感じにくく、スタッフには明るく感じられる空間を作り出しています。天井の下面乳白アクリルパネル付きのTENQOOシリーズは、新生児が天井面を見上げた際に眩しさを感じにくいよう、ベッド真上を避けて配置しています。また照明制御コントローラーにより朝～昼～夜の時間の流れを、明るさを変えることで(新生児ベッド部分で最大500ルクス、最小50ルクスを目標)再現しています。



スタッフステーションと廊下の照明 廊下などの共用部にはLEDユニット交換形ダウンライト⑤を配置

主な掲載機器一覧				
設置場所	器具名(品種名)	形名	台数	備考
3階	LED2面配光間接光器具 特注	① LEDT-40260W-LD9 改 (3000K)	58	消費電力: 33.0W
		② LEDT-20260W-LD9 改 (3000K)	6	消費電力: 16.9W
	TENQOOシリーズ 埋込形40タイプ	③ LEKR416523L-LD9+F41123(下面アクリルパネル付)	25	消費電力: 32.5W
		④ LEKR416693N-LD9	17	消費電力: 38.5W
	LEDユニット交換形ダウンライト	⑤ LEKD203005WWW-L59	186	消費電力: 13.5W